

## 5 「情報化対応職務能力診断システム」の構築

### 5. 1 「情報化対応職務能力診断システム」のコンセプト

本研究において構築した「情報化対応職務能力診断システム」は、次のコンセプトに基づいて開発を行った。

#### (1) 目的

- ・「情報化対応職務能力診断システム」は、近年の労働環境において急速に進展しているIT化に対して、中高齢者が適切に対応できるよう「自己の職務能力の客観的な把握」及び「職務能力向上のための自己啓発の促進」を図ることを目的に開発する。

#### (2) 対象者

- ・「情報化対応職務能力診断システム」は、45歳以上のホワイトカラーを対象とし、そのなかでも中高齢者の代表的な職位である「部課長」と、IT分野において代表的な職種である「ソフトウェア技術者」を診断・サポートの対象者とする。

#### (3) 診断の範囲

- ・「情報化対応職務能力診断システム」では職務能力を多面的に捉え、「知的柔軟度」、「労働意欲」、「仕事の力量」について診断を行う。
- ・なお、知的柔軟度については「思考型機能、行動型機能」から構成され、労働意欲については「モチベーション、柔軟性、創造性」、仕事の力量については「情報収集・分析技能、計画技能、管理・評価技能、組織編成技能、動機付け・教育・指導技能、コミュニケーション技能、知識力・情報源、環境変化対応能力」によって構成される。

#### (4) 診断の方法

- ・「知的柔軟度」、「労働意欲」、「仕事の力量」の各テストとも、収集したサンプルデータに基づいて定量的かつ客観的な診断を行う。
- ・なお、「仕事の力量」については、診断結果に基づき、弱みの項目に対して自己啓発促進のためのサポートコメントを提示する。

#### (5) システムのユーザーインターフェイス

- ・「情報化対応職務能力診断システム」は、45歳以上の部課長及びソフトウェア技術者に広く活用してもらうため、誰もが操作しやすいユーザーフレンドリーなインターフェイスとする。具体的には次の点に配慮して開発する。

- －画面上の説明文や設問文は分かりやすい平易な表現とする
- －画面の文字は見やすいよう、フォントサイズを大きく表示する
- －入力デバイスは操作の容易性の観点から「マウス」とする

#### (6) 診断の所要時間

- ・「情報化対応職務能力診断システム」は対象者が気軽に診断できるよう、全テストの診断所要時間を、30分程度を目安に開発する。

## 5. 2 「情報化対応職務能力診断システム」の特徴

本研究において構築した「情報化対応職務能力診断システム」は、民間企業・公的機関等で提供されている既存の職務能力診断システム等の事例と比較して、主に以下に挙げる点に大きな特徴点、相違点がある。(なお、民間企業・公的機関等において提供されている職務能力診断システム等の事例は資料編参照)

### (1) 労働環境における「情報化」「高齢化」に着目した職務能力診断システム

・近年の労働環境では「情報化」「高齢化」が急速に進展している。そのため、本研究では中高齢者が情報化に対応した職務能力の開発・向上を促進することを目的に、「情報化対応職務能力診断システム」を構築した。診断システムの対象者は「45歳以上のホワイトカラー」とし、さらにそのなかでも代表的な職位である「部課長職」と、IT分野において代表的な職種である「ソフトウェア技術者」とし、情報化に対応できるための情報化対応職務能力診断システムを構築した。

### (2) 職務能力を多面的に診断（「認知機能」「労働意欲」に対する診断）

・本研究の「情報化対応職務能力診断システム」では、職務能力を「認知機能」「労働意欲」「仕事の力量」から捉え、それら各々について具体的な診断を行えるものとした。他の先行事例では、「仕事の力量」等から一面的に診断しているものが多いなかで、本システムは職務能力を多面的・包括的に捉えている。特に、「認知機能」「労働意欲」に関する診断が行える点が大きな特徴点である。

### (3) 客観的データに基づく職務能力の診断

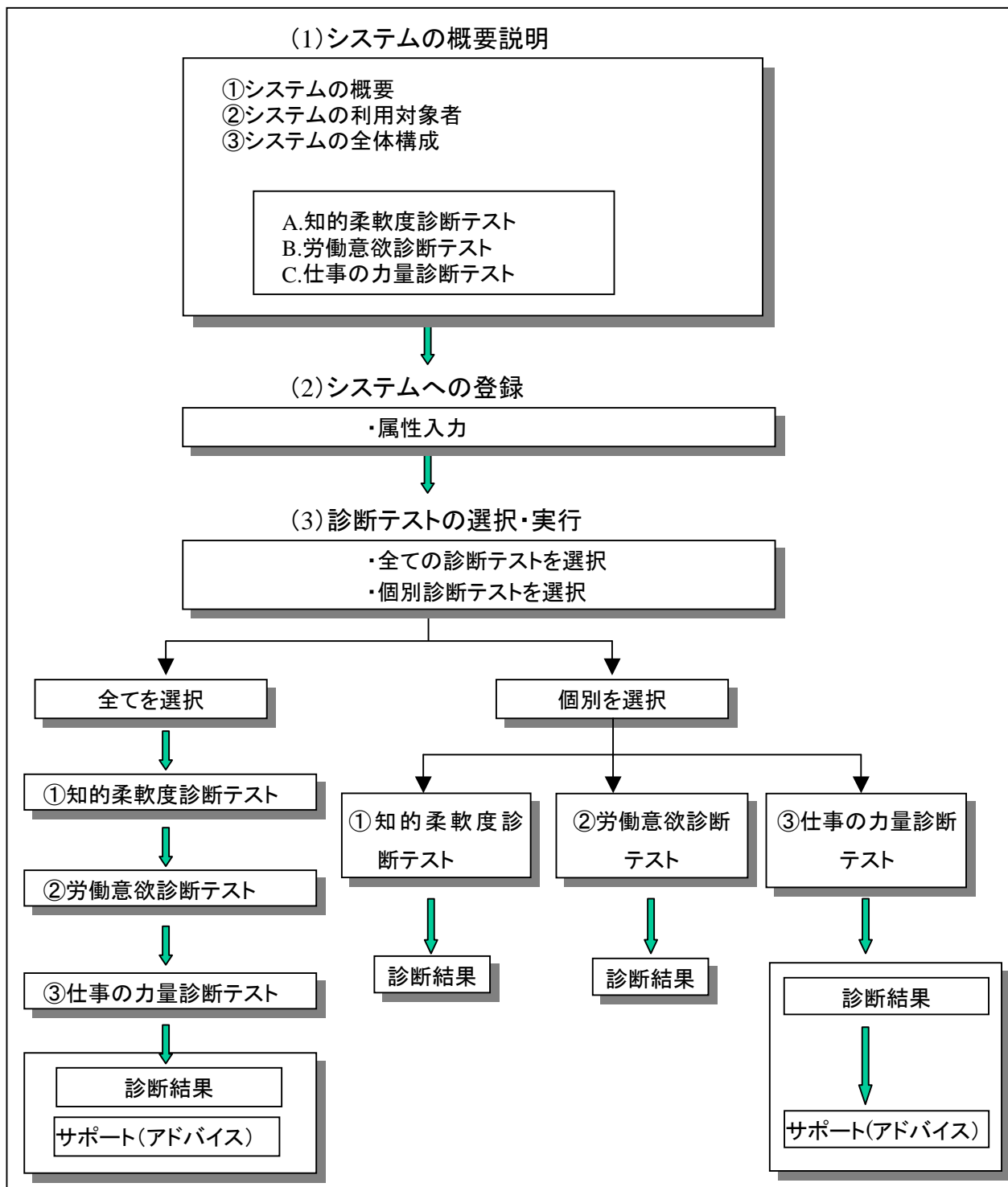
・本研究の「情報化対応職務能力診断システム」では、客観的な基準値に基づいて診断を行うものとしている。具体的に「仕事の力量」の診断では、部課長職1,013サンプル、ソフトウェア技術者2,344サンプルの評価データを収集して、基準値を設定している。対象者自身が、他人と比べて、自分自身がどの程度のレベルであるのかを相対的、客観的に評価できる。

### 5. 3 「情報化対応職務能力診断システム」の全体フロー

「情報化対応職務能力診断システム」の全体フローは以下のとおり。

(※「認知機能」に関しては、診断内容がより分かり易くなるように、本診断システム内では「知的柔軟度」と呼称する。)

図表 5. 3. 1 : 情報化対応職務能力診断システムの全体フロー

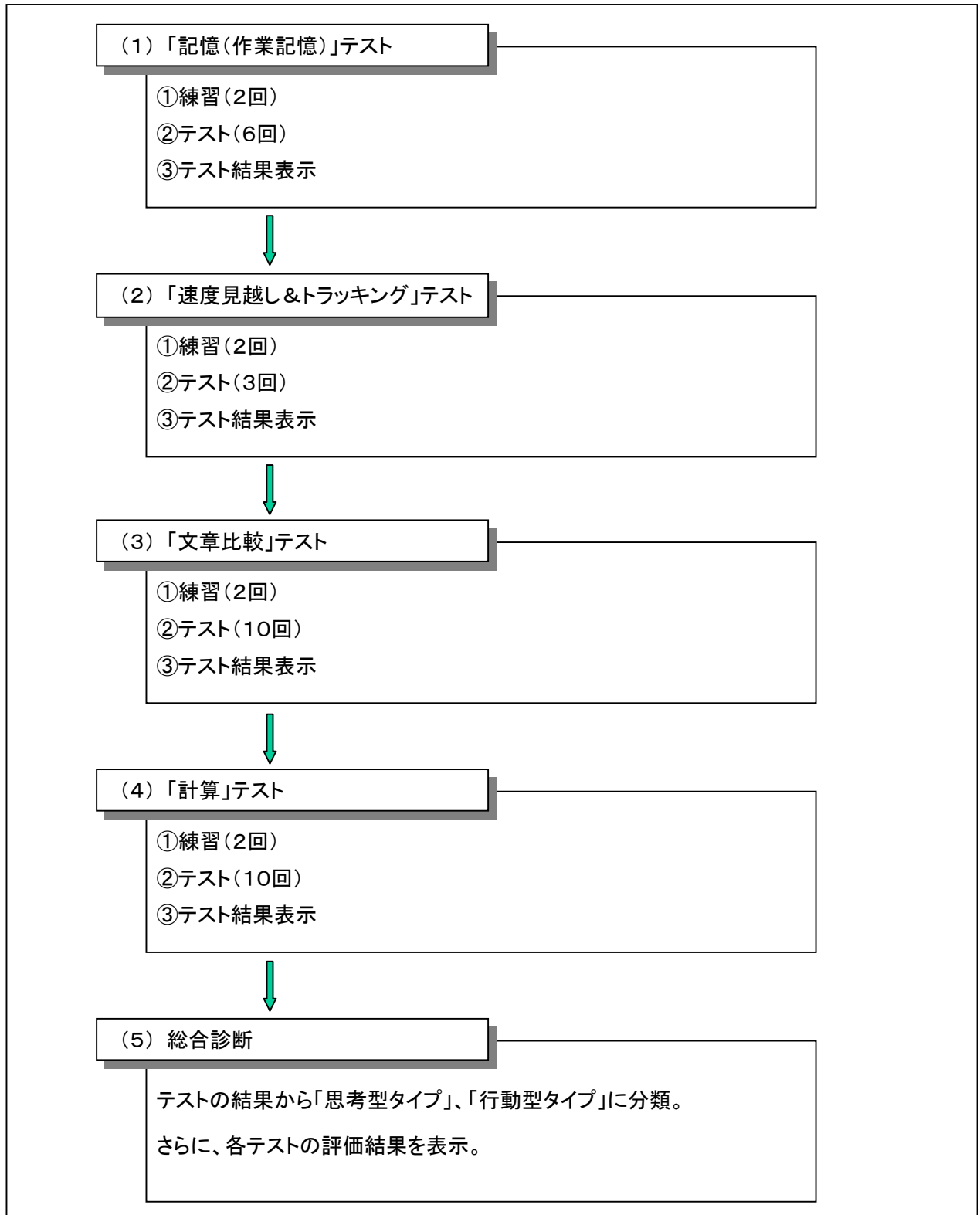


## 5. 4 各テストのフロー

### 5. 4. 1 知的柔軟度テストのフロー

知的柔軟度テストのフローは以下のとおりである。

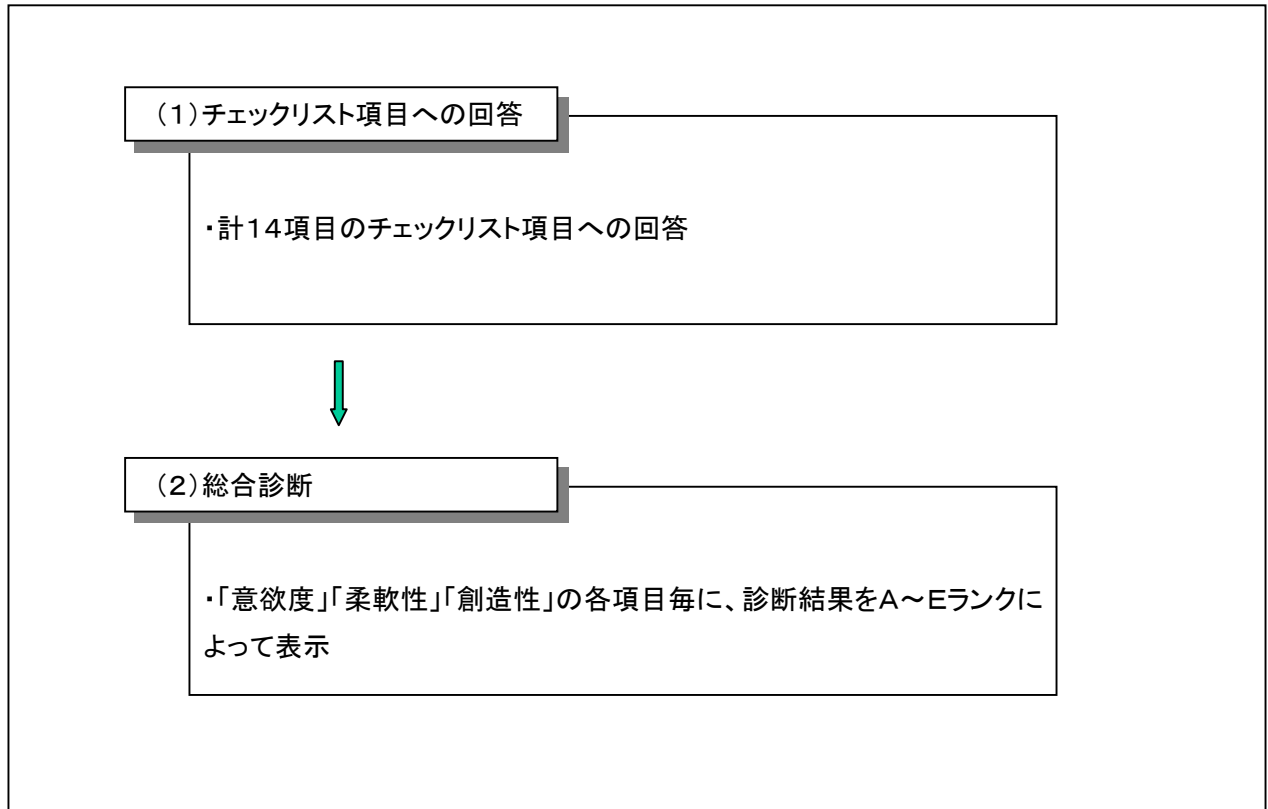
図表 5. 4. 1 : 知的柔軟度テストのフロー



## 5. 4. 2 労働意欲テストのフロー

労働意欲テストのフローは以下のとおりである。

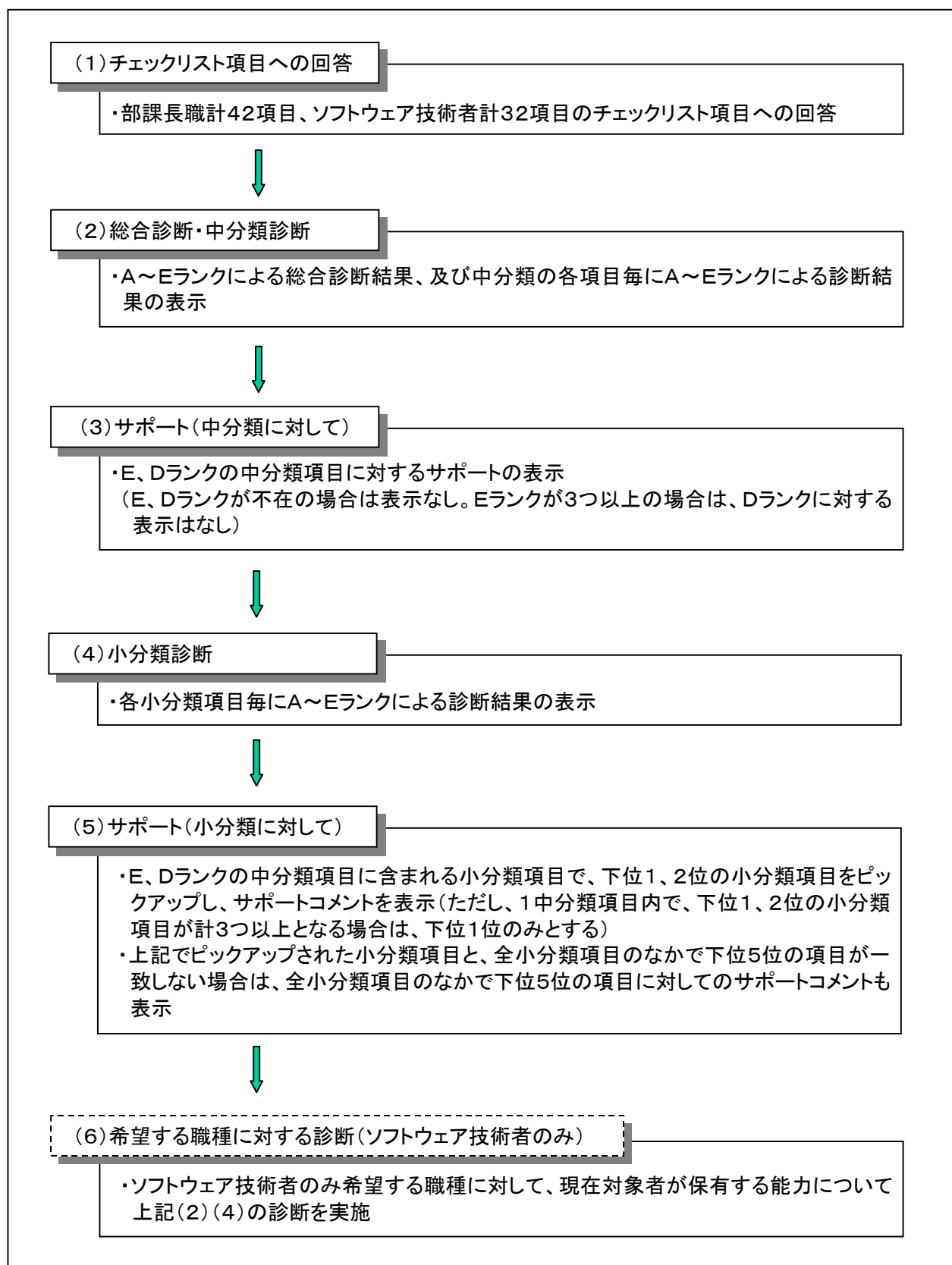
図表 5. 4. 2 : 労働意欲テストのフロー



### 5. 4. 3 仕事の力量テストのフロー

仕事の力量テストのフローは以下のとおりである。

図表 5. 4. 3 : 仕事の力量テストのフロー



## 5. 5 「情報化対応職務能力診断システム」の画面イメージ

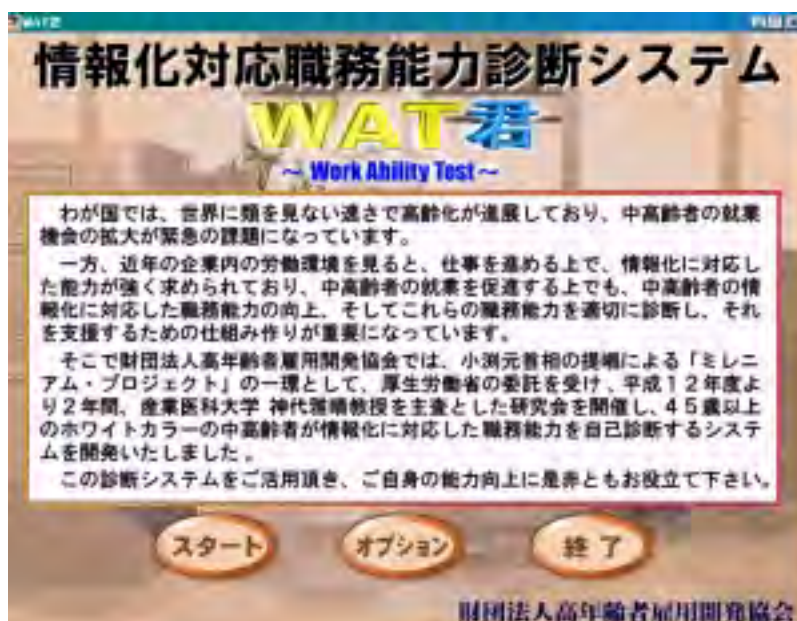
### 5. 5. 1 「システムの概要説明」等の画面イメージ

情報化対応職務能力診断システムのうち、図表5. 3. 1の「(1) システムの概要説明」、「(2) システムへの登録」、「(3) 診断テストの選択・実行」の画面イメージは以下のとおりである。

#### (1) システムの概要説明

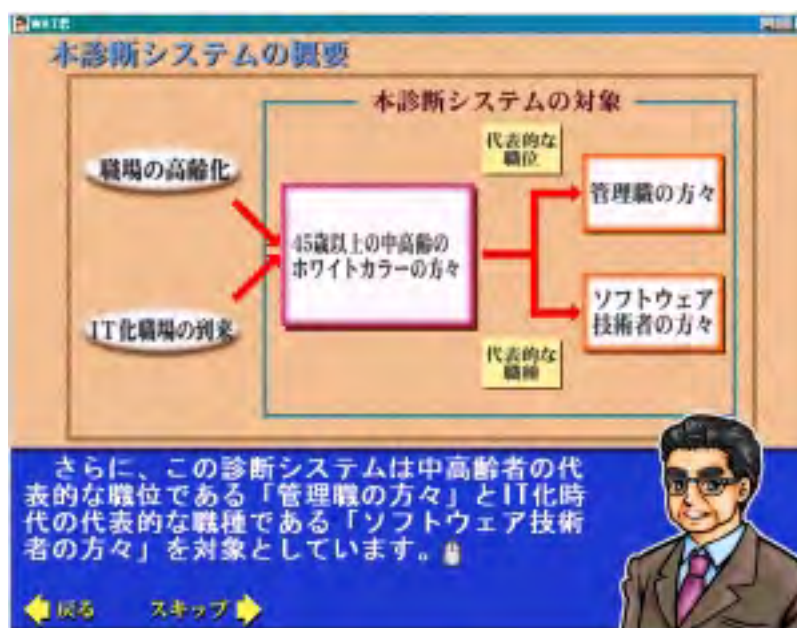
##### ①システムの概要

図表5. 5. 1：システムの概要



##### ②システムの利用対象者

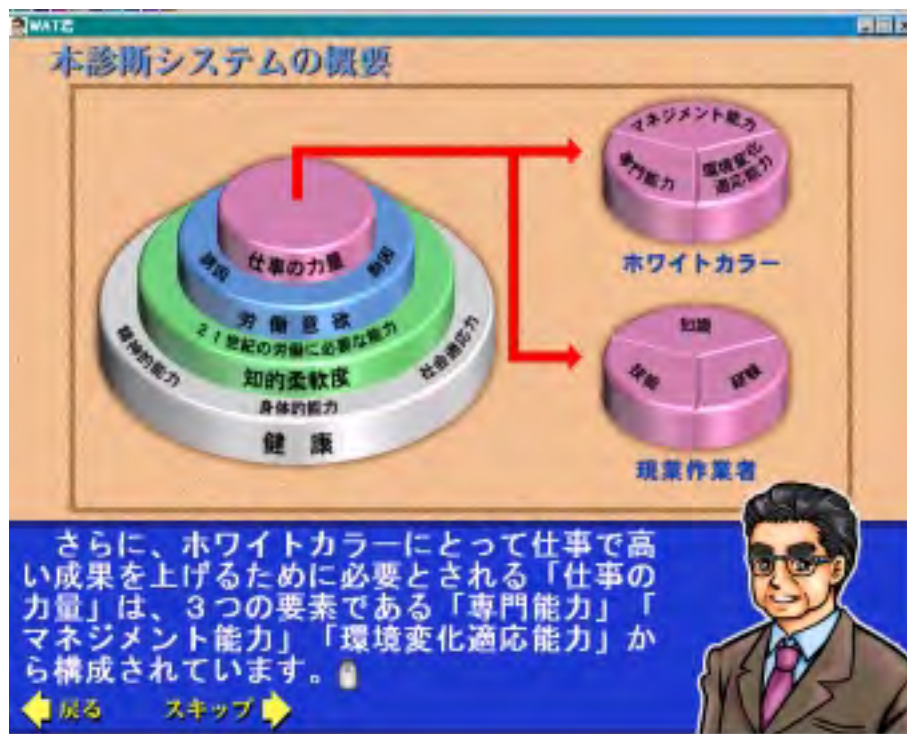
図表5. 5. 2：システムの利用対象者





③システムの全体構成

図表 5. 5. 3 : システムの全体構成



(2) システムへの登録

図表 5. 5. 4 : 診断・サポートシステムへの登録

(3) 診断テストの選択・実行の画面イメージ

図表 5. 5. 5 : 診断テストの選択・実行の画面イメージ



## 5. 5. 2 「知的柔軟度テスト」の画面イメージ

知的柔軟度テストについて、図表 5. 4. 1 の各フローの画面イメージは以下のとおりである。

### (1) 「記憶（作業記憶）テスト」

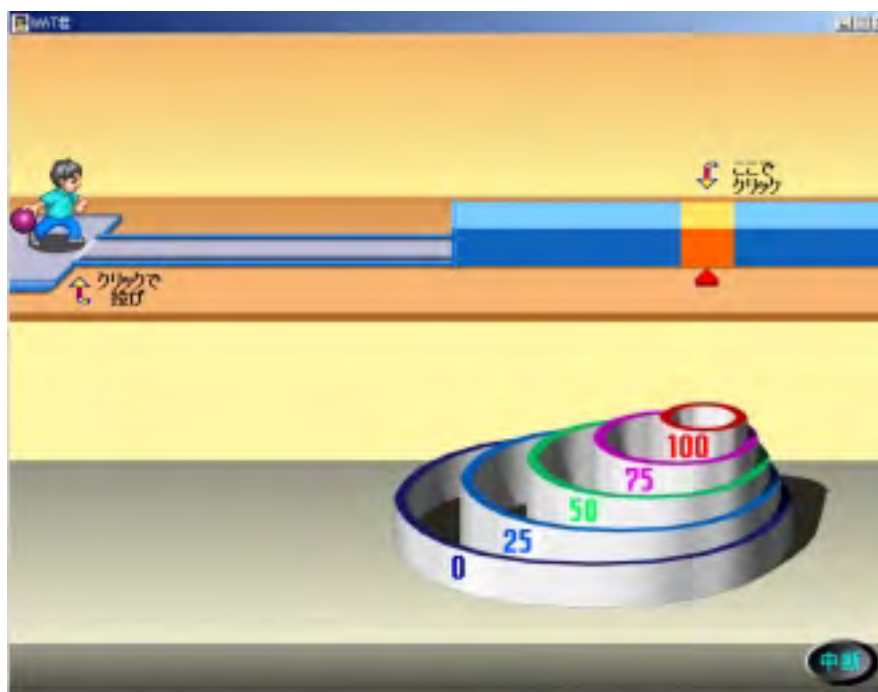
図表 5. 5. 6 : 「記憶（作業記憶）テスト」



### (2) 「速度見越し&トラッキングテスト」

#### ① 速度見越しテスト

図表 5. 5. 7 : 速度見越しテスト



②トラッキングテスト

図表 5. 5. 8 : トラッキングテスト



(3) 「文章比較」テスト

図表 5. 5. 9 : 「文章比較」テスト



(4) 「計算」テスト

図表 5. 5. 10 : 「計算」テスト



(5) 総合診断

図表 5. 5. 11 : 総合診断

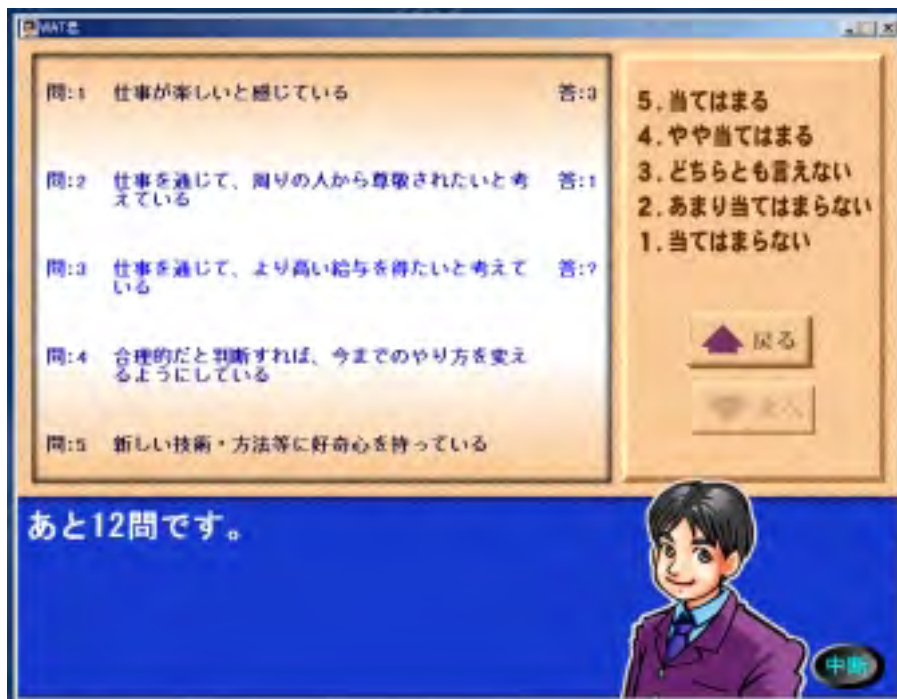


### 5. 5. 3 「労働意欲テスト」の画面イメージ

労働意欲テストについて、図表 5. 4. 2 の各フローの画面イメージは以下のとおりである。

#### (1) チェックリスト項目への回答

図表 5. 5. 12 : チェックリスト項目への回答



#### (2) 総合診断

図表 5. 5. 13 : 総合診断

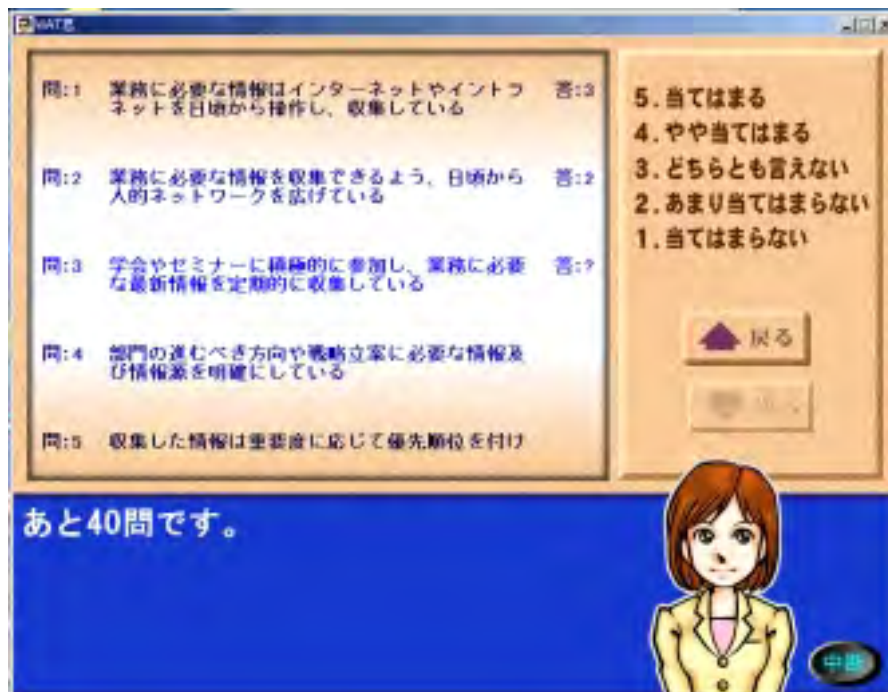


## 5. 5. 4 「仕事の力量テスト」の画面イメージ

仕事の力量テストについて、図表 5. 4. 3 の各フローの画面イメージは以下のとおりである。

### (1) チェックリスト項目への回答

図表 5. 5. 14 : チェックリスト項目への回答



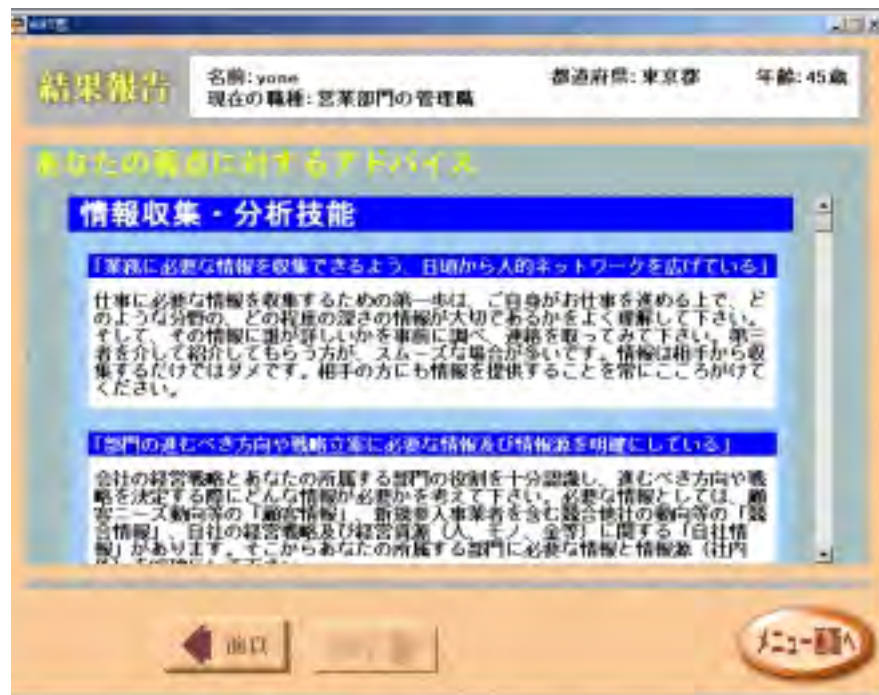
### (2) 総合診断・中分類診断

図表 5. 5. 15 : 総合診断・中分類診断



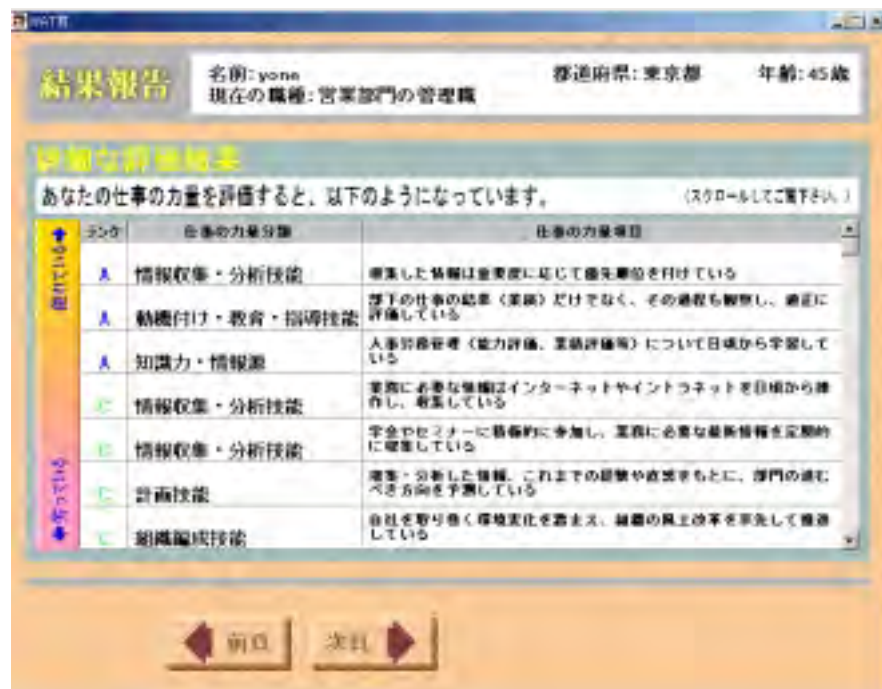
(3) サポート (中分類に対して)

図表 5. 5. 16 : サポート (中分類に対して)



(4) 小分類診断

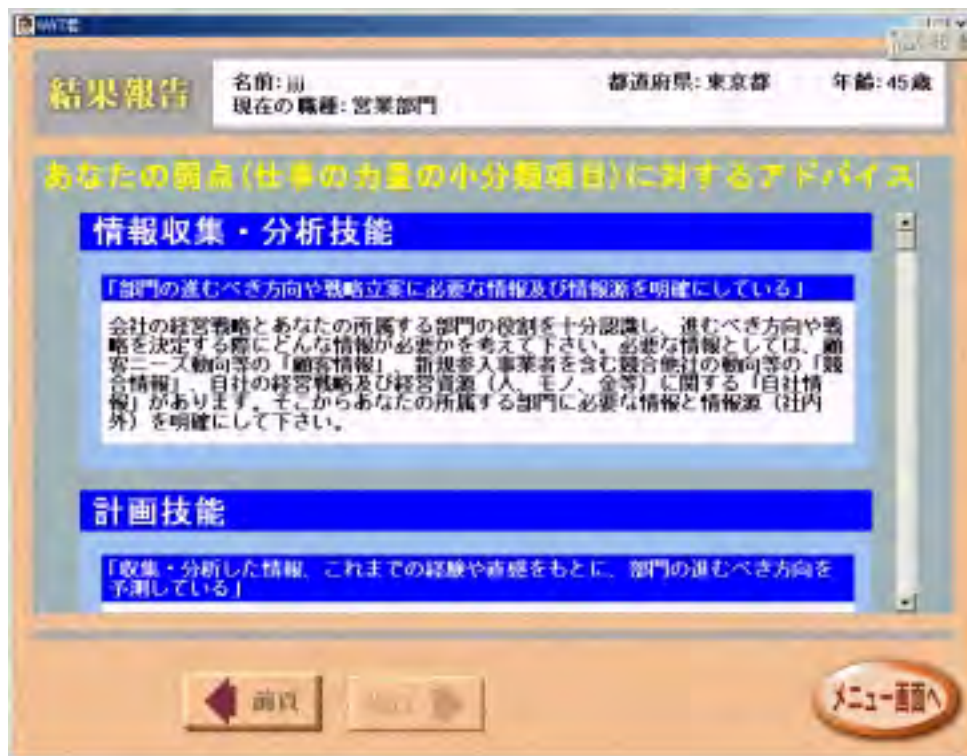
図表 5. 5. 17 : 小分類診断





(5) サポート (小分類に対して)

図表 5. 5. 18 : サポート (小分類に対して)



(6) 希望する職種に対する診断 (ソフトウェア技術者のみ)

図表 5. 5. 19 : 希望する職種に対する診断 (ソフトウェア技術者のみ)

